

2025年4月7日

JPE出資先 トラディショナル型サーチファンド  
**Japan Bullseye Capital** (ジャパンプルズアイキャピタル)  
**株式会社ゲートウェイアーチの資本と経営を承継**

— 中小企業の事業承継の新しいカタチを実現 —

日本プライベートエクイティ株式会社  
URL: <https://www.private-equity.co.jp>

日本プライベートエクイティ株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長 法田真一、以下、「JPE」)が出資する、“トラディショナル型サーチファンド”のジャパンプルズアイキャピタル合同会社(本社:東京都文京区、代表社員・共同創業者:小林英輔、業務執行社員・共同創業者:洲崎瑞治。以下、「JBC」)は、今般、ジグソーパズルの企画・製造・販売を行う株式会社ゲートウェイアーチ(本社:東京都新宿区。以下、「GWA社」)の創業者でありオーナー経営者である吉田勝久氏、吉田和代氏から株式を譲り受け、事業を承継しました。

JBCは、2023年9月、日本では3組目の“トラディショナル型サーチファンド”として、また、共同創業者2名による“パートナー型”サーチファンドとして国内で初めて組成され、JPEでは、当初設立時より出資し、その活動を“応援”してきました。

今般、JBCは、当初目指していた通り、将来性ある、優良な中小企業のオーナー経営者から経営を託されて事業承継を実現、今後は、GWA社の経営を自らが担い、成長戦略の実現に取り組んでいきます。



## 1. 本件概要

日本国内で活動するサーチファンドには、“アクセラレーター型”と“トラディショナル型”の2つの形態があります。

JBCは、小林英輔氏と洲崎瑞治氏の両名が組成した、国内外の投資家からサーチ資金と買収資金を自らの力で調達するという“トラディショナル型サーチファンド”で、設立当時、国内では3組目となる事例でした。特に、一人で立ち上げるのではなく、共同創業者2名がサーチャーとして組成する“パートナー型”のサーチファンドは、海外では珍しくはないものの、日本では初めての事例でした。

JPEによる“トラディショナル型サーチファンド”への出資は、JBCが2組目であり、JPEでは、JBCが募った国内外4ヶ国の投資家(16の法人・個人)とともに、その活動を“応援”し、投資先企業の長期的な成長にコミットすることを目指してきました。

今般、JBCは、GWA社という、将来性ある優良な中小企業のオーナー経営者と出会い、株式を譲り受け、経営を引き継いだことで、トラディショナル型サーチファンドとしてのサーチ活動と事業承継のフェーズを終え、今後は、GWA社の経営を担い、成長戦略の実行と新たな価値創造に取り組めます。

## 2. Japan Bullseye Capital による資本と経営の承継

### (1) 資本と経営の承継

JBCは、“トラディショナル型サーチファンド”として2023年9月にサーチ活動を開始。そして、約1年半のサーチ活動のなかで巡り会えた“運命の1社”が、GWA社でした。

GWA社は、1985年に京都で創業。以来、40年という業歴を有する、ジグソーパズル業界の老舗企業です。ジグソーパズルの企画からデザイン、製造をすべて自社内で完結し、素材や加工技術の特許も有するなど、歴史あるニッチなマーケットのなかでも常にクリエイティブで革新性を追求し続けている企業です。

例えば、サトウキビ原料のバイオマス樹脂を素材に用いたジグソーパズルや透明なジグソーパズルなどでの特許技術を有しているほか、パズルをはめ込む際の独特の感触や固定感、高発色で鮮やかな色合いの美しさの実現など、企画、デザイン、素材、加工技術などでの多岐にわたる差別化を武器に、紙のパズルはもちろん、数あるパズルとの差別化を図り、国内外で永く支持されています。

創業者でオーナー経営者である吉田氏は、自身の現役引退までに成し遂げたい夢に共感してくれる人材、かつ、事業を理解して経営を託せる人材への事業承継を望むなか、JBCの2人に出会い、共に時間を過ごすなかで、2人であれば経営を託すことができる、2人に託すことが事業承継の最善の方法であると確信するようになりました。

一方、JBCの2人も、吉田氏の想いに共感すると同時に、ジグソーパズルという事業の将来性やGWA社のビジネスモデルに魅力を感じ、GWA社の事業をより成長させて将来へとつなぎたいと願うようになりました。

こうして3人が出会い、約1年もの間にわたる対話と信頼関係の構築を経て、この3人だからこそ、また、サーチファンドだからこそその“事業承継のカタチ”を実現するに至りました。

なお、JBCは、今回の株式譲受にあたり、JPEをはじめ、国内外の合計22者(個人・法人)の投資家より資金調達を実施しました。

あわせて、融資面では、きらぼし銀行(本店:東京都港区)と日本政策金融公庫(本店:東京都千代田区)がLBO融資(レバレッジドパイアウトローン)を実行し、事業承継の円滑な実行を支援しました。

## (2) ジグソーパズル事業の成長可能性

“ジグソーパズル”は、国内市場規模だけみると、約130億円というニッチな市場ですが、世界市場は、約3,000億円ともいわれる、ポテンシャルある市場です。

また、ジグソーパズルは、単なる“玩具”にとどまらず、1つの作品として、あるいは、完成するまでの創作過程やパズルとして有する機能を活かすことで、さまざまな成長可能性を秘めています。

例えば、大量のデジタルコンテンツを受動的に消費する生活スタイルが定着しつつある現代において、ジグソーパズルを完成させることでの『自らの手で成し遂げた』という達成感や体験価値を提供できるのは、ジグソーパズルという玩具ならではのです。一方、大人だけでなく、子どもにとっては、創作過程で“視覚”と“触覚”を同時に刺激しながら“集中力”も必要とするという“知育玩具”でもあります。同様に、創作過程の特性は、高齢者向けの脳機能の維持・向上を目的として活用できるツールともなります。

また、絵画やデザインを基に構成され組み立てていく、“言語を必要としない”という、ジグソーパズルの特性は、グローバル展開を容易にします。海外からのコンテンツだけではなく、日本のアニメやアーティストが発信するコンテンツの文化的・芸術的価値をパズルと掛け合わせて可視化や体験化する“グッズ”という1つの形態とすることで、そのマーケットはさらにグローバルに広がります。

こうして、老若男女、国や言語を問わず、日本発のグローバル展開が考えられる商材として、また、市場として、作品として、ツールとして、その視点を変えるだけで多様なニーズを顕在化することが可能なプロダクトとなるのが、“ジグソーパズル”です。

今後は、潜在化している成長可能性の顕在化を図るため、柔軟なアイデアや企画力、製造から販売、国内から海外まで、ジグソーパズル事業への期待をいかに成長に結びつけ、具現化できるかが、GWA社の新しい経営に求められています。

よって、今後は、JBCの小林氏の投資・物流事業での経験を活かした新規事業創出やグローバル展開の実現、洲崎氏の法人営業やIT分野での知見を活かした、販売チャネルの強化やECサイトでの販売拡大などにより、GWA社の経営だけではなく、ジグソーパズルという業界に、新しい経営感覚や手法が持ち込まれ、新たな化学反応を起こすことで、GWA社の成長を実現し、さらに可能性を広げていくものと考えます。



世界最小ピースのジグソーパズル『PICO MAGIC』

### 3. JPEによる“トラディショナル型サーチファンド”への出資・応援

JPEでは、2022年7月より、“トラディショナル型サーチファンド”に出資を行っています。2022年7月に初めて出資した「M-Capital」(志村光哉氏)は、2024年7月に株式会社アイルの事業承継を実現。そして、今回の「ジャパンプルズアイキャピタル」(小林英輔氏、洲崎瑞治氏)と、それぞれにしかできない、それぞれらしい“事業承継のカタチ”を実現しています。

こうした投資は、トラディショナル型サーチファンドだからこそできる“事業承継のカタチ”であるとも考えています。

JPEでは、上記2社の他に、「ジャパン・リレー・パートナーズ合同会社」(小林靖氏)に出資、“応援”していますが、国内では、現在、複数のトラディショナル型サーチファンドやサーチャーが活動しています。

今後、サーチファンドを通じた起業(EtA: Entrepreneurship through Acquisition/買収を通じた起業)の動きは、国内でも加速していくものと見込まれますが、同時に、サーチャーも“選ばれる”時期に早々に入ってきたともいえます。

JPEでも、引き続き、トラディショナル型サーチファンドへの出資とその活動を(支援ではなく)“応援”することで、サーチファンドを通じて事業承継を実現した中小・小規模企業の成長発展に、既存の事業承継ファンドとはまた違った、長期的な視点でコミットしたいと考えます。

あわせて、信念と覚悟のあるサーチャーが、中小企業の事業承継の新たな担い手となって活躍できる環境や成功モデルを確立するため、志を同じくする仲間として、“サーチャー”が、“社長”となり、社員と一緒に“経営者”へと進化するプロセスを“応援”します。

#### 4. 各社概要

\*2025年4月1日現在

□ 株式会社ゲートウェイアーチ <https://gatewayarch.jp/>

本社所在地	東京都新宿区市谷仲之町 3-17 アークレジデンス市谷仲之町
設立	1985年4月
経営陣	代表取締役 小林 英輔 取締役 洲崎 瑞治
事業内容	玩具およびジグソーパズルの企画・製造・販売

□ ジャパンブルズアイキャピタル合同会社（JBC） <https://japanbullseye.com>

本社所在地	東京都文京区本駒込 6 丁目 13-19
設立	2023年8月
運営者	代表社員 兼 共同創業者 小林 英輔 業務執行社員 兼 共同創業者 洲崎 瑞治
事業内容	1.事業承継問題を抱える中小企業の株式を譲り受け、経営を承継する事業 2.投資先の選定、投資及び投資先の経営 3.前各号に附帯関連する一切の事業

□ 日本プライベートエクイティ株式会社（JPE） <https://www.private-equity.co.jp/>

本社所在地	東京都千代田区神田三崎町二丁目 15 番 6 号 K-STAGE 5F
設立	2000年10月24日
資本金	6,000万円
代表者	代表取締役社長 法田 真一
事業内容	中堅・中小・小規模企業の事業承継や事業再編を対象としたファンドの運営、コンサルティング

【 本件に関するお問い合わせ先 】

日本プライベートエクイティ株式会社

東京都千代田区神田三崎町 2 丁目 15 番 6 号 K-STAGE 5F

Tel:03-3238-1726 Mail:info@private-equity.co.jp

担当: 投資企画部

以上